

令和4年度 学校関係者評価

学校名		北海道厚真高等学校	
組織名		学校評議委員会	
評価者		学校評議員5名	

1 本年度の重点目標

重点目標	
(1)基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着及び読解力の向上を図るとともに、自ら学び主体的に学習に取り組む生徒を育てる。 (2)言語活動や体験的な活動などとおして、よりよい人間関係や社会性を育成するとともに、自己表現が適切に表出できる生徒を育てる。 (3)自己の適性を理解するとともに、将来の進路設計を明確に持ち、未来を切り拓く向上心にあふれ、課題解決に必要な思考力、判断力を持った生徒を育てる。	
重点目標の適切さ	・高い目標を立て、それに向かって努力するなど適切な目標である。三年間の生徒への取組は大変良いことと思う。今後は積極的に会話をすること、発言をすることを目標に加えてはどうか。

2 自己評価結果

評価項目・指標等			達成状況	取組の適切さ	改善の方策	自己評価の結果 内容の適切さ	取組の適切さ	今後の改善方 策の適切さ
大項目	中項目	小項目						
学習指導	・基礎的・ 基本的な 知識技能 の定着 ・主体的な 学習	(指標) 生徒の自己評価、学校生活アンケート等において、「朝学習」の取組等に係る肯定的な回答が70%以上となることを目指す。 (生徒の肯定的な回答(そう思う・おおむねそう思う)が70%以上を評価A、50%以上を評価B、50%未満を評価Cとする)	A	A	肯定的回答89%、前年度87%と比べ増加。職員の取組は3.5で0.1低下。学習に向かう姿勢の乏しい生徒が一部いる。次年度はさらに向上を目指す。	A	A	A
		(指標) 生徒の自己評価、学校生活アンケート等において、家庭学習に関して「取り組んでいる」「概ね取り組んでいる」等の肯定的な回答が60%となることを目標とする。 (生徒の肯定的な回答(そう思う・おおむねそう思う)が60%以上を評価A、40%以上を評価B、40%未満を評価Cとする)	B	B	肯定的回答47%、前年度51%と比べ年々減少傾向にある。課題に対する意識の改善や実施方法の工夫が必要。次年度は向上を目指す。	B	B	A
		(指標) 授業の途中退室について、1人あたり前年度比減を目指す。 (新指標 前年度比減を評価A、変化なしを評価B、前年度比増を評価Cとする)	A	A	実数345名、前年度368名、前年度と比べ改善した。次年度はさらに改善できるように取り組む。	A	A	A
評価者の意見等	・評価は結果ばかりでなく前向きな姿勢が必要であり、一步一步進んでいると評価します。努力する様子がわかります。							
生徒指導	・公共の精神や社会規範を尊重する意識と態度 ・自ら判断し行動する	(指標) 朝の遅刻を、1人あたり前年度比減を目指し、指導啓発を行う。 (前年度比減を評価A、変化なしを評価B、前年度比増を評価Cとする)	A	A	・実数は251名であり、前年度259名と比べて若干減少した。教員による朝の出迎え活動、集会を活用した啓発指導など、今後も多面的な取組を積極的に進める。	A	A	A
		・生徒理解に努めた継続的な指導 ・規範意識の育成、連携のとれた指導体制の確立	A	A	・「そう思う」との回答90%。いじめに対する啓発活動が影響している。職員の取組は3.8と高い。次年度も100%を目標に各HRや全校集会時における指導、組織的な対応の充実を図る。	A	A	A
評価者の意見等	・いじめアンケートばかり見るのが良いのか、生徒達への目配りや気配りが必要。生活態度などは自覚していてとても良い。							
進路指導	・3年間を見通した指導	(指標) 進学・就職希望の年度内進路決定率を100%とする。 (内定率が100%であれば評価A、80%以上が評価B、80%未満を評価Cとする)	B	A	・進路決定89.3%。新規高卒求人では難しい障がいを抱えた生徒の就職支援が課題。個別の職業指導も含め、様々な取組により、職業観・進路意識を涵養し、早期に取り組んでいく。	A	A	A
		・進路情報の収集および資格・検定の取組	B	B	・65.3%(前年97%・前々年86%)であった。1年生30.4%、2年生68.2%、3年生92.6%であり、2月末に受検予定があるが、次年度も取組を進め、合格率の向上を図る。	A	B	A
評価者の意見等	・概ね適切に評価している。進路就職100%でなくても先生達は子ども達へ取り組んでいると思う。教員も生徒も謙虚な判断がなされており、まだ余力を感じます。前向きな気持ちを応援します。・学歴で給与が異なることから、可能ならば進学指導に重点をいれていただきたい。							
・「達成状況」項目の評価(A、B、C)は、生徒による学校評価(自己評価)アンケートの集計結果に基づく。 ・「取組の適切さ」項目の評価(A(3.5～4.0)、B(3.0～3.4)、C(～3.0))は、教員による学校評価(自己評価)アンケートの集計結果に基づく。								